

平成 26 年度

病害虫発生予報第 6 号

平成 26 年 10 月 23 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス(キャベツ菌核病について)	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量はやや多と予想されます。圃場によって発生のみらつきが大きいので、圃場をよく見て発生密度が高い場合は防除をしてください。

2) 茶

チャでは、カンザウハダニの発生量はやや多と予想されます。発生密度が高い圃場では防除してください。

3) 野菜

トマトでは、疫病の発生量は平年並と予想されます。

イチゴでは、ハダニ類の発生量はやや多と予想されます。多発すると防除が困難となるため、適期防除に努めてください。うどんこ病の発生量は平年並、炭疽病の発生量はやや少と予想されます。

ハクサイでは、白斑病の発生量はやや少と予想されます。

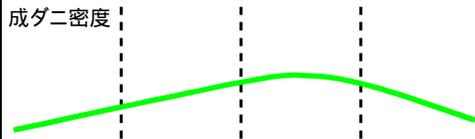
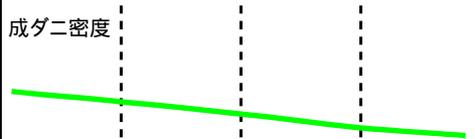
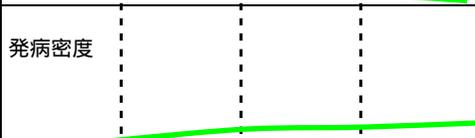
キャベツでは、黒腐病の発生量はやや少と予想されます。

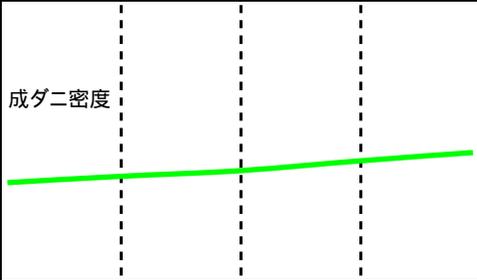
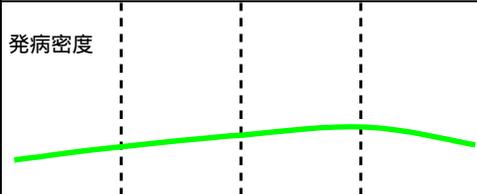
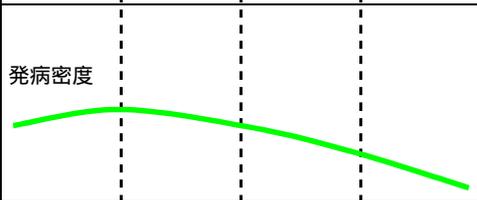
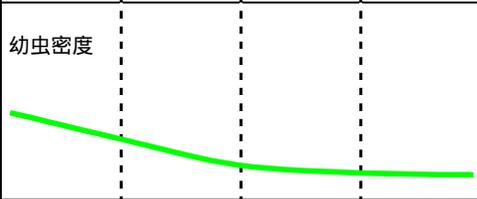
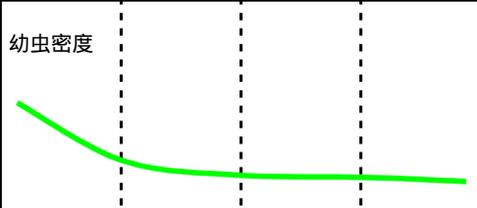
ネギでは、ネギコガの発生量はやや少、シロイチモジヨトウの発生量は少と予想されます。

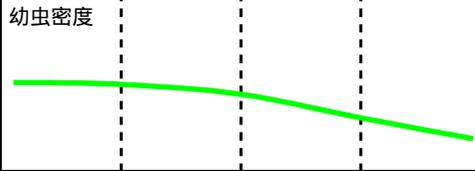
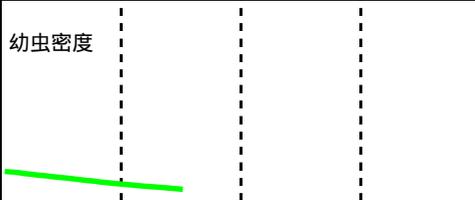
野菜共通では、コナガ、ハスモンヨトウの発生量はやや少と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや多	中	普通	成ダニ密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 1葉当りのハダニ成虫数が、0.5～1.0頭程度を目安に防除してください。 2) 中晩柑類で袋かけをする品種では、作業にかかる前に必ず発生状況を確認し、必要に応じて防除を行ってください。
チャ	カンザワハダニ	-	やや多	中	普通	成ダニ密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤がかかりにくい葉裏に生息していますので、丁寧に薬剤散布してください。 2) 同一系統の薬剤の連用は、抵抗性が発達しやすいので避けましょう。
トマト	疫病	-	平年並	小	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病後の病徴の進展が非常に早いので、初発生を確認した場合には集中的に薬剤散布をしてください。 2) 20 ぐらいの温度で多湿条件の時に発生が多くなります。 3) 病原菌は被害植物の残渣とともに土中に残り、伝染源となります。発病株は圃場外に持ち出し処分してください。
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	小	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) ビニールの被覆後、発生が増加します。 2) 予防防除に重点をおいて薬剤散布をしてください。 3) 発病を認めたときは、葉裏に薬液がかかるよう、下葉を除去して丁寧に防除してください。
	炭疽病	-	やや少	小	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> 1) 感染した苗は、本圃定植後に発病します。 2) 発病株は除去し、圃場外へ持ち出して適切に処分してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
						10月	11月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	中	普通	成ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 天敵を利用する場合は、発生密度の低いうちに導入し、農薬は天敵への影響を考慮して使用してください。 2) 薬剤防除では、発生を確認したらできるだけ早期に防除してください。 3) 薬剤をかかりやすくするため下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。
	ハクサイ	-	やや少	小	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 秋から初冬にかけて、雨が多いと多発する傾向があります。 2) 肥料切れすると発病を助長します。 3) 発病初期の薬剤防除を徹底してください。
キャベツ	黒腐病	-	やや少	小	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 土壌中の病原菌が雨滴で葉に飛散し、感染します。大雨後や特に冠水したときは、速やかに薬剤防除をしてください。 2) 発病株は翌年の伝染源となるので、圃場外に持ち出して処分してください。
ネギ	ネギコガ	-	やや少	小	普通	幼虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため、発生初期から防除をしてください。
	シロイチモジヨトウ	-	少	小	普通	幼虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 若齢幼虫から葉の内部に侵入し、内側から表皮を残して食害します。 2) 老齢ほど薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
野菜共通	コナガ	-	やや少	小	低					1) 冬でも生育を続けて加害します。 2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。
	ハスモンヨトウ	-	やや少	中	普通					1) 老齢幼虫に対しては防除効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。 2) 新芽部を食害されると、生育や収量への影響が大きいため、適期防除に努めてください。 3) 施設ではハウスのパイプや換気口周辺などの資材にも産卵するので、注意してください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月16日発表)によると、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(10月中旬)では、100葉当り寄生頭数は無防除区 4.4頭(平年 43.6頭)と少、慣行防除区 393.3頭(平年 38.8頭)と多 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発生圃場率 15.4%(平年 34.6%)と少、寄生葉率 6.0%(平年 4.0%)、寄生頭数 0.17頭/葉(平年 0.07頭/葉)といずれも多 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は圃場によるばらつきはあるものの平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月16日発表)によると、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(10月中旬)では、寄生葉率 26.0%(平年 3.1%)と多、寄生頭数 0.8頭/m²(平年 0.12頭/m²)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、寄生葉率 2.5%(平年 0.8%)と多、寄生頭数 0.06%(平年 0.01%)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
トマト	疫病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率 0%(平年 0%)と平年並に少 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、大きな増加要因がないので、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率 0.4%(平年 0.3%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	炭疽病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 10月上中旬に台風 18、19号が通過 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率 0%(平年 0.6%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概してやや少) (-)</p> <p>考察：一般圃場での発生状況を重視して、現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多く、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、寄生株率 10.5%(平年 6.5%)と多、発生程度 3.0(9年平均 2.7)と平年並の傾向(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多～多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
ハクサイ	白斑病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 10月上中旬に台風18、19号が通過 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率0%(平年6.3%)、発病度0(平年1.6)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量は少と考えられますが、気象要因による今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
キャベツ	黒腐病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 10月上中旬に台風18、19号が通過 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率0.2%(平年0.3%)、発病度0.05(平年0.07)とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無～少(概して少) (-)</p> <p>考察：一般圃場の状況を重視して、現状の発生量は少と考えられますが、気象要因による今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数21頭(平年18.2頭)と平年並 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、被害葉率0%(平年0.5%)とやや少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	シロイチモジヨトウ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数20頭(平年53.7頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、新葉での被害葉率0.4%(平年4.6%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概して少) (-)</p> <p>考察：現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
野菜共通	コナガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数1頭(平年11.9頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、ハクサイの寄生株率0.2%(平年0.2%)と平年並、寄生虫数0.002頭/株(平年0.01頭/株)とやや少、キャベツの寄生株率0.7%(平年1.5%)と少、寄生虫数0.01頭/株(平年0.02頭/株)と少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ハスモンヨトウ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月16日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数435頭(平年1895.6頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、トマトの寄生株率0%(平年0.1%)と平年並に少、イチゴの寄生株率0.5%(平年2.2%)と少、ハクサイの寄生株率0%(平年0.7%)と少、キャベツの寄生株率1.8%(平年5.3%)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比): 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比): 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度): 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比): 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例: 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項: 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±): 平年並の要因

(+): 発生量増加または発生時期遅延の要因

(-): 発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「キャベツ菌核病について」

キャベツ菌核病とは？

キャベツ菌核病は、カビ(糸状菌)の一種である *Sclerotinia sclerotiorum* が原因で発生する病害です。本菌はキャベツを始め、レタス、ナタネ、キュウリ、イチゴなど、非常に多くの植物を侵して発病します。キャベツは特に侵されやすく、しばしば多発して問題となっています。



図. キャベツ菌核病による病徴(左図 三重県農業研究所原図)

病徴と被害

結球開始期頃から発生し始め、初めは下葉の葉柄基部近くに水浸状の病斑が形成されます。病斑は次第に拡大して結球部まで進展し、結球部全体が汚灰白色に腐敗します。葉をめくると白色綿毛状の菌糸が密生しており、その中にやがて黒色のネズミ糞状の菌核を形成します(図)。

病徴はキャベツ軟腐病と似ていますが、本病は軟腐病のような悪臭がなく、白色綿毛状のカビが生え、菌核を形成する点で異なります。

病原菌の生態と感染経路

病原菌は菌核の形で植物残渣とともに土壤に混入し、伝染源となります。菌核は土中で数年間生存することができます。春(3~5月)もしくは秋(9~11月)に、気温20以下になると子のう盤という小さなキノコ状の器官を作り、そこから孢子が作られます。孢子は雨滴や風によって飛散し、植物体に到達します。

発生しやすい条件

本病菌の生育適温は20前後であり、また多湿条件で発病しやすくなります。

防除対策

(耕種的防除)

- 1) 連作を避けましょう。また、本病が発病する作物(アブラナ科、キク科、ウリ科、バラ科など)との輪作はやめましょう。
- 2) 栽培終了後、もしくは夏季に1か月程度湛水し、菌核を死滅させましょう。
- 3) 発病した茎葉は菌核が生じないうちに抜き取り、圃場外で処分しましょう。
- 4) 排水不良は本病の発病を助長するので、排水対策を行いましょう。

(薬剤防除)

- 5) 外葉が地表面を覆う前に、葉裏や株元に届くよう、丁寧に薬剤を散布しましょう。
- 6) 降雨は発病を助長するので、雨が続くと予想される場合は、予防的に薬剤を散布しましょう。
- 7) 耐性菌の発生を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けましょう。

6. 気象のデータ

東海地方1か月予報 (平成26年10月16日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、低気圧と高気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わってでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

また、暖かい空気に覆われるため、2週目を中心に気温が高いでしょう。

1週目 10月18日～ 24日	期間の前半は高気圧に覆われて晴れますが、後半は雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 1.7日・4.3日
2週目 10月25日～ 31日	天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われ、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	同 1.6日・4.3日
3～4週目 11月1日～ 14日	低気圧と高気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わってでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 3.0日・8.7日

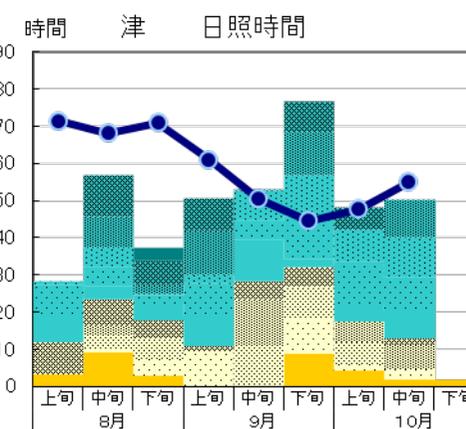
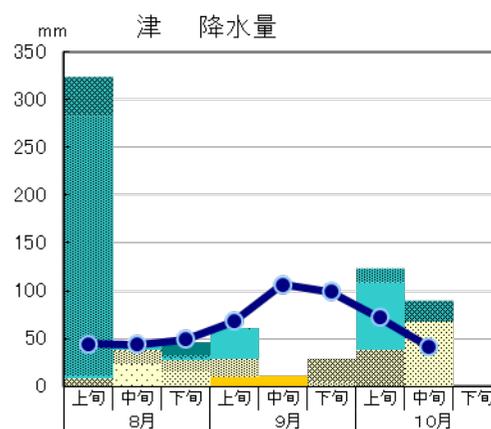
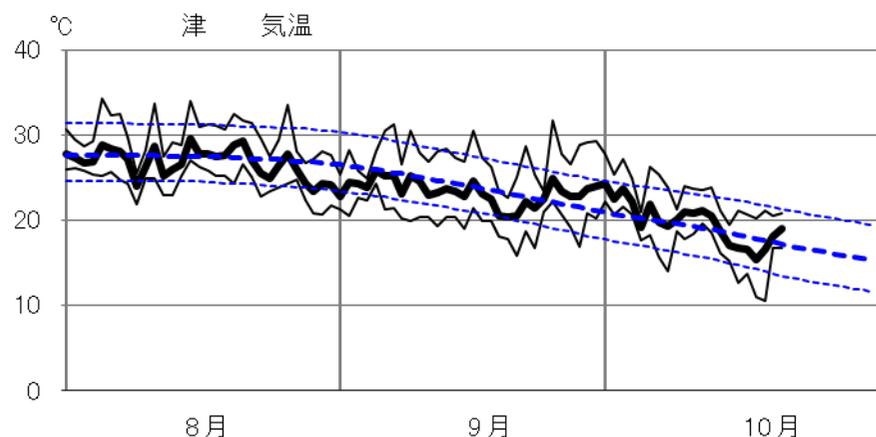
東海地方週間天気予報 (平成26年10月22日10時30分 名古屋地方気象台発表)

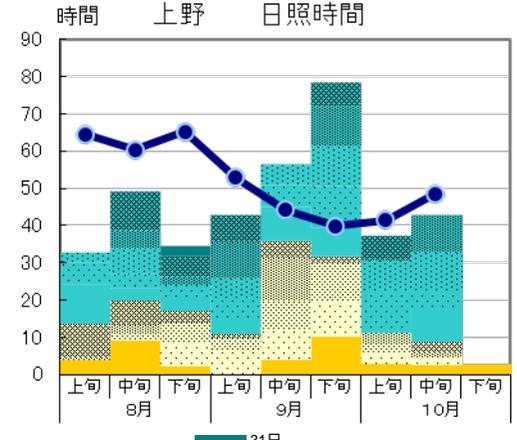
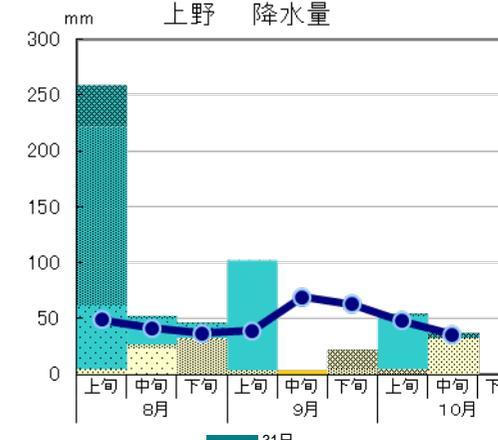
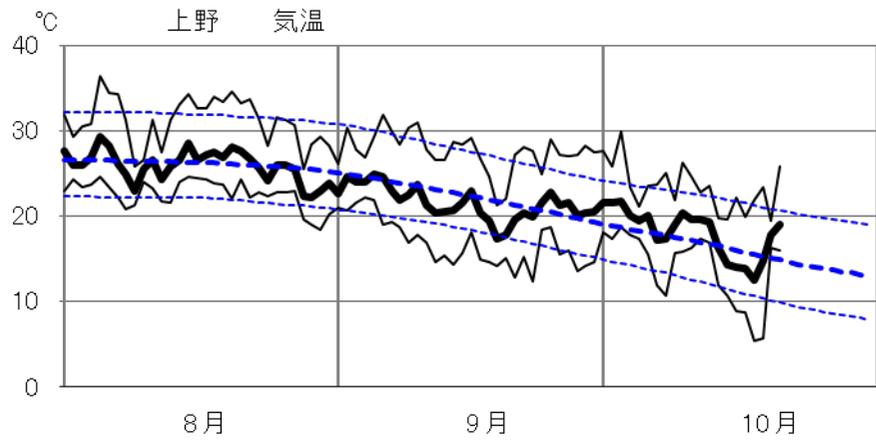
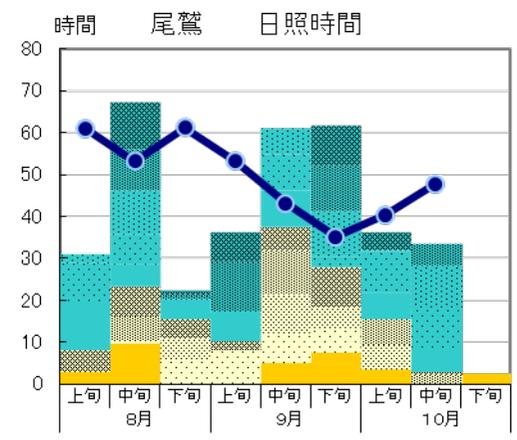
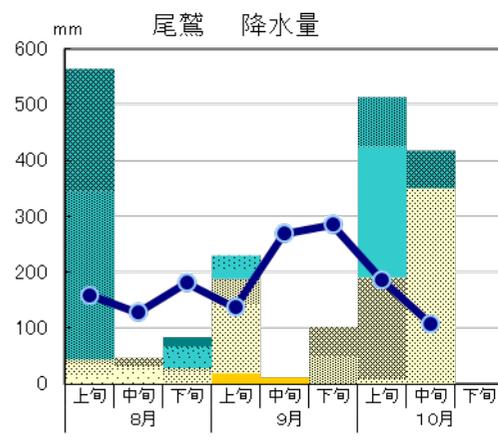
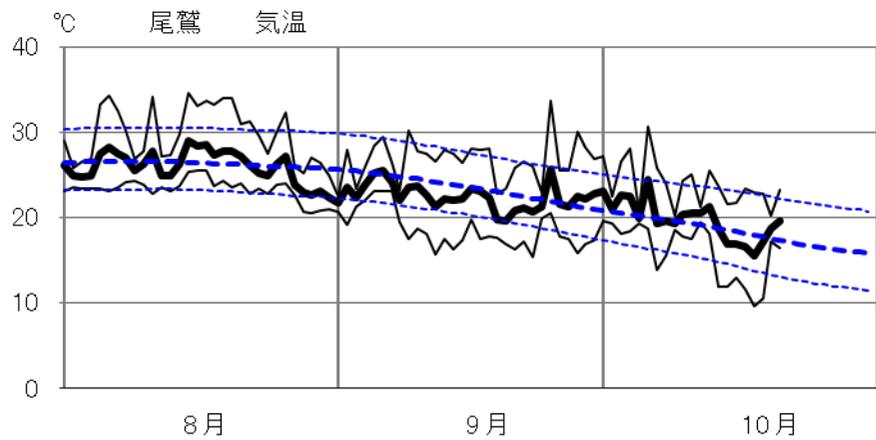
予報期間 10月23日～10月29日

向こう1週間は、23日は気圧の谷の影響で雨が降るでしょう。その後は高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすい見込みです。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より高いでしょう。
降水量は平年並の見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (10月21日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 平年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- 第1回 4月24日(木)(済み) 第2回 5月29日(木)(済み)
- 第3回 6月26日(木)(済み) 第4回 7月24日(木)(済み)
- 第5回 8月28日(木)(済み) 第6回 10月23日(木)(今回)
- 第7回 3月19日(木)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohoteteki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>